

教科等名：音楽

グループ：小学部 1 コース高学年ブロック
音楽 2 グループ

事例報告者：教員B

1 研究グループの概要

[教員] 8名

小学部 7名

中学部 0名

高等部 1名

} 音楽専科 0名

[対象] 小学部 I コース 高学年 ブロック
音楽 2 グループ

児童 8名、教員 4名

2 事例研究の経過

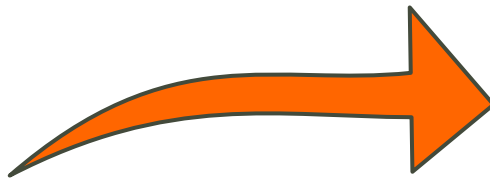
①実態把握

②授業実践

③学習の様子

④考察、授業改善

実態把握① 1 学期



指導者	コース	IIコース			Iコース														
		小A	中A	高A	小低			小中			小高			中			高		
					1G	2G	3G	1G	2G	3G	1G	2G	3G	1G	2G	3G	1G	2G	3G
CT 免許 音楽専科		非公開																	
ST数		非公開																	
児童生徒	児生数	5	3	3	6	6	7	6	8	6	9	8	9	8	16	14			
国語の 段階	集団の上位	小1	小1	小1	小2	小1	小1	小2	小2	小2	小3	小2	中1	小3	高1	小3			
	集団の下位	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小1	小1	小1	小1	中3	小1	中1	小1			
数学の 段階	集団の上位	小1	小1	小1	小2	小1	小1	小2	小2	小2	小3	小2	中1	小3	高2	小3			
	集団の下位	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小1	小1	小1	小1	小2	小1	小2	小1			
単元1	【音楽遊び】（歌唱に向けて） 目標の段階	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1					
単元2	【音楽遊び】（器楽に向けて） 目標の段階（上位）	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1					
単元3	【音楽遊び】（音楽づくりに向けて） 目標の段階（上位）	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1					
単元4	【音楽遊び】（身体表現に向けて） 目標の段階（上位）	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1					
単元5	A表現【歌唱】 目標の段階（上位）				小2	小2	小2	小2	小2	小3	小2	小3	小2	高1	小3				
単元6	A表現【器楽】 目標の段階（上位）		小2	小2	小2	小2	小2	小2	小2	小3	小2	小3	小2	高1	小3				
単元7	A表現【音楽づくり】（小中） 目標の段階（上位）		小2	小2	小2	小2	小2	小2	小2	小2	小2	小2	小2	小2					
単元8	A表現【創作】（高） 目標の段階（上位）				小2	小2	小2	小2	小2	小3	小2	小3	小2	小3					
単元9	A表現【身体表現】 目標の段階（上位）				小2	小2	小2	小2	小2	小3	小2	小3	小2	小3		小3			
単元10	B鑑賞【鑑賞】 目標の段階（上位）	小1	小3	小3	小1	小1	小2	小1	小2	小3	小2	小3	小2	高1	小3				

コース		Iコース	
学部		小高	
グループ		2G	
指導者	CT 免許 音楽専科	非公開	
	ST数		
児童生徒	児生数	8	
	国語の 段階	集団の上位	小2
		集団の下位	小1
	数学の 段階	集団の上位	小2
		集団の下位	小1
単元1	【音楽遊び】（歌唱に向けて） 目標の段階	小1	
単元2	【音楽遊び】（器楽に向けて） 目標の段階（上位）	小1	
単元3	【音楽遊び】（音楽づくりに向けて） 目標の段階（上位）	小1	
単元4	【音楽遊び】（身体表現に向けて） 目標の段階（上位）	小1	
単元5	A表現【歌唱】 目標の段階（上位）	小2	
単元6	A表現【器楽】 目標の段階（上位）	小2	
単元7	A表現【音楽づくり】（小中） 目標の段階（上位）	小2	
単元8	A表現【創作】（高） 目標の段階（上位）		
単元9	A表現【身体表現】 目標の段階（上位）	小2	
単元10	B鑑賞【鑑賞】 目標の段階（上位）	小2	

実態把握① 2, 3 学期



コース		IIコース			Iコース															
学部					小低			小中			小高			中			高			
グループ		小A	中A	高A	1G	2G	3G	1G	2G	3G	1G	2G	3G	1G	2G	3G	1G	2G	3G	
指導者	CT 免許 音楽専科	非公開																		
	ST数																			
	児生数	5	3	3	6	6	7	6	8	6	9	8		9	8		16	14		
児童生徒	国語の 段階	集団の上位	小1	小1	小1	小2	小1	小1	小2	小2	小2	小3	小2		中1	小3		高1	小3	
		集団の下位	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小1	小1	小1	小1		小3	小1		中1	小1	
	数学の 段階	集団の上位	小1	小1	小1	小2	小1	小1	小2	小2	小2	小3	小2		中1	小3		高2	小3	
		集団の下位	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小1	小1	小1	小1		小2	小1		小2	小1	
単元1	【音楽遊び】(歌唱に向けて) 目標の段階	小1	小1	小1	小1	小1	小1		小1	小1										
単元2	【音楽遊び】(器楽に向けて) 目標の段階(上位)	小1			小1	小1	小1		小1	小1										
単元3	【音楽遊び】(音楽づくりにに向けて) 目標の段階(上位)				小1															
単元4	【音楽遊び】(身体表現に向けて) 目標の段階(上位)	小1	小1		小1	小1	小1		小1	小1										
単元5	A表現【歌唱】 目標の段階(上位)				小2				小2	小2	小2	小3	小2		小3	小3		高1	中1	
単元6	A表現【器楽】 目標の段階(上位)		小2	小2	小2				小2	小2	小2	小3	小2		小3	小3		高1	中1	
単元7	A表現【音楽づくり】(小中) 目標の段階(上位)		小2	小2	小2				小2			小3			小3	小2			中1	
単元8	A表現【創作】(高) 目標の段階(上位)																	高1		
単元9	A表現【身体表現】 目標の段階(上位)			小2	小2				小2	小2	小2	小3	小2			小3				
単元10	B鑑賞【鑑賞】 目標の段階(上位)	小1	小2	小3	小1	小1	小1	小2	小2	小2	小3	小2			小3	小3		高1	中1	

コース	Iコース		
学部	小高		
グループ	2G		
指導者	CT 免許 音楽専科		
	ST数		
	児生数		
児童生徒	国語の 段階	集団の上位	小2
		集団の下位	小1
	数学の 段階	集団の上位	小2
		集団の下位	小1
単元1	【音楽遊び】(歌唱に向けて) 目標の段階	小1	
単元2	【音楽遊び】(器楽に向けて) 目標の段階(上位)	小1	
単元3	【音楽遊び】(音楽づくりにに向けて) 目標の段階(上位)		
単元4	【音楽遊び】(身体表現に向けて) 目標の段階(上位)	小1	
単元5	A表現【歌唱】 目標の段階(上位)	小2	
単元6	A表現【器楽】 目標の段階(上位)	小2	
単元7	A表現【音楽づくり】(小中) 目標の段階(上位)		
単元8	A表現【創作】(高) 目標の段階(上位)		
	A表現【身体表現】 目標の段階(上位)	小2	
単元10	B鑑賞【鑑賞】 目標の段階(上位)	小2	

【グループの児童の様子】

- ・ 8名の児童がおり、選択肢を提示すれば「すき」や「きらい」などの、簡単な自分の気持ちや考えを伝えることができる児童から、発語がない児童まで広く在籍している。
- ・ 発語がない児童は、自分の気持ちや考えをイラストや写真を選択して表すことができる。歌唱の際には、マイクを向けると口を開けたり、発声したりして歌おうとする様子が見られる。

授業実践

【教科名】音楽

【単元名】器楽 「しあわせならてをたたこう」

【単元設定の理由】

1 単元観

- (1) 太鼓を正しい叩き方（両手でバチを持って太鼓の中心を交互に叩く）で音を出す力
- (2) 楽器の名前を知り、答える力

2 指導観

- (1) 太鼓の中心に目印をする。左右の手で交互に叩くことが分かりやすいよう、太鼓を二つ用意する。
- (2) 楽器の名前の選択肢（カード）を用意する。

【学習指導要領上の段階】 小学部 2段階

【単元の目標】

知	太鼓の中心を叩くことや、交互に叩くなど、正しく楽器を鳴らすことができる。
思	虫の鳴き声に合う楽器を自分で考えて選ぶことができる。
学	自分から虫の鳴き声に合う楽器を選んだり、楽器を鳴らそうとしたりしている。

実践①

【本時の内容】 器楽 「しあわせならてをたたこう」

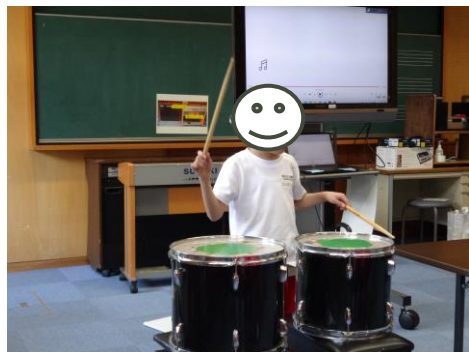
【本時の目標】

知	バチを左右の手でそれぞれ持って、交互に振り下ろして太鼓を叩くことができる。
思	音楽に合わせて正しいタイミングで叩くことができる。
学	音楽に合わせて進んで太鼓を鳴らそうとしている。

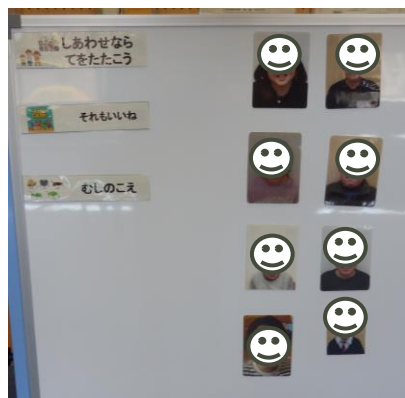
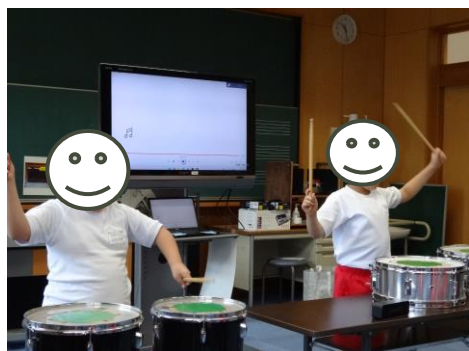


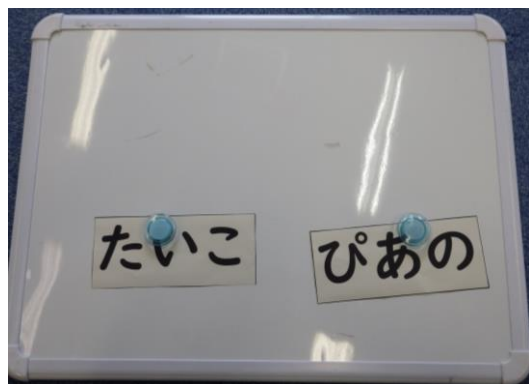
- ・ 太鼓の中心に目印をつけ、中心を視覚化した。

- ・ 太鼓を一人2つ用意して、左右の腕で交互に叩くことが分かりやすくした。



- ・ 叩いた後にバチを太鼓から離せるように両手を上に挙げた状態で始め、叩いた後にすぐに挙げるようにした。





- ・ 「たいこ」カードと「ぴあの」カードの選択肢を用意した。



- ・ 名前を言える児童は、口頭で伝えさせるようにした。



①成果

- ・ 左右の手を交互に振り下ろして叩くことが分かりやすいように、太鼓を2つ並べて叩かせるようにした。最初は片手のみで叩く様子が見られたが、交互に叩くことができる児童が増えてきた。
- ・ 太鼓を一つにしても交互に振り下ろして叩くことができる児童が多くなった。

②課題

- ・ 教師が腕を支えれば、自分で左右の腕を交互に振り下ろすことができるが、支えなしだと両手で同時に叩いてしまう児童がいた。
- ・ 今後は太鼓一つでも叩くことができるようにしていきたい。

①成果

- ・ 楽器の名前の選択肢を提示しなくても答えられるようになった児童がいた。
- ・ 2択の選択肢から正しい名前を選ぶことができた。

②課題

- ・ 児童同士の言語能力を用いたコミュニケーションを促すための活動をどのように設定すればよいのか難しい。どのように設定すればよいか。

付箋紙法 (1回目)

【教科の力】

教師の支援なしで左右交互に腕を動かして太鼓を叩くことができるようにするための指導法

メンバー

教員B、他6名

成果（良かった点）

身体の動き

太鼓のポーズを始めに示すことで打つことに気持ちを向けられている。

「太鼓のポーズ」は有効自由度が制限されることで目標が達成しやすい。

太鼓の数

太鼓を2つ用意して交互に叩けるようにした点。

音を聞くこと

児童が音楽をちゃんと聴いて、自分の打つタイミングを表現していた。

視覚支援

太鼓を叩く位置に目印をつけた点。

太鼓の叩く場所の目印があり、ねらいやすい。

課題（解決への方策）

活動順・視覚支援

太鼓を叩く順番を決める、数字が難しい実態であれば、動物のイラストなどを貼って、「うさぎ、らいおん」と声掛けをする

身体の動き

腕を上げるのが難しい場合は腕を上げる意識をもたせる。まずは太鼓1つからはじめて、腕を上げて目印を打つ気持ちを持てるようにする。

腕を順番に上げ下げすることの練習は必要なのか。

視覚支援

緑（太鼓の真ん中）に数字を振る。

太鼓を叩く目印を右と左で色を分ける。

視覚的にわかるように工夫する。

言葉かけ

言葉を「わん」「つー」などに変更する。

付箋紙法 (1回目)

【言語活用能力】

児童同士の言語能力を用いたコミュニケーションを促す活動の設定

メンバー

教員B、他6名

成果（良かった点）

選択肢の提示

実態別に選択の仕方を分けたこと。

選択肢を2択にしたことで選びやすい。

磁石を置いて選択できるようにした点。

「ぴあの」「たいこ」の2択なので子どもたちも答えやすい。

発問・回答

一人一人に楽器の質問をしていることが良い。

楽器名を個々に応じた方法で答えられるようにして良い。

課題（解決への方策）

協働学習・コミュニケーション

児童同士で質問し合う。クイズ形式などにする。

協働的な学びの中での児童同士のコミュニケーションの場面が設定できるかどうか。

音楽であっても協働的な学び（活動）が設定できるのではないのでしょうか。

楽器の選択（ピアノ／太鼓）を生徒に質問させてみる。

「たいこのホーズ」
⇒「オー」
意図的にやり取りを設定する。

掛け声

音の高低や大小に合わせて、みんなで声を掛け合いながら体を動かす（フラフープを上げる、下げるなど）をしたらどうか。

全員での掛け声を工夫する。

言語化・共有

児童から出た言葉や表現を教員が間に入って周りに伝える。それに児童も拍手やタッチ等で反応する。

【言語活用能力】児童同士の言語能力を用いたコミュニケーションを促す活動の設定

①成果

- ・「楽器の名前クイズ」では、個々の児童に応じた方法で答えられるようにして良い。
 - *言葉で答える 2択で指差し マグネットを置く
- ・全員に答える機会を設定して良い。

②課題

- ・クイズの出題を児童が行うことで、意図的にやり取りの機会を設定してみてはどうか。
- ・「太鼓のポーズ」⇒「おー！」など、掛け声取り入れることでやり取り仕組んでいくのはどうか。
- ・児童の言葉を意識的に拾い上げ、ハイタッチや拍手等の反応を促しながら、雰囲気盛り上げる。
- ・道具を用いたり、ジェスチャーや動きに合わせて、みんなで声を合わせていくような活動もよい。

【言語活用能力】児童同士の言語能力を用いたコミュニケーションを促す活動の設定

①改善点

- ・クイズの出題を児童が行うことで、意図的にやり取りの機会を設定してみてもどうか。

②成果

楽器クイズの出題を全てを児童に任せることは難しかったが、教師が補助しながら行うことで、回答者を指名したりそれに応じて答えたりする場面が見られた。

③課題

- ・数回しかできなかったこともあるが、出題者児童の出題に対して、他の児童が反応することが難しかった。（発語の不明瞭さもある？）出題、回答する児童に偏りが出てきてしまう。

付箋紙法 (2回目)

【教科の力】

教師の支援なしで左右交互に腕を動かして太鼓を叩くことができるようにするための指導法

メンバー

教員B、他7名

成果（良かった点）

スモールステップ

スモールステップで取り組んだことで、ねらいが達成された。

スモールステップで積み上げていくことで無理なく目標を達成していた。

シンプルな視覚支援

視覚支援として打面に数字を示したことで、叩く順番も分かりやすく、ねらいが達成できていた。

白黒でシンプルな数字の視覚支援は見やすく児童に有効であった。

視覚支援がシンプルで分かりやすかった。

打面に数字を振ることで、太鼓は片手ずつ叩くという理解が深まった。

課題（ステップアップを目指して）

一人ひとりの演奏をつなげていく活動は協働的な学びとなる

各自がそれぞれ自分のパートを叩き、繋げていく。

一人一人のパートを合わせて一つの曲を演奏する。

みんなで一緒に

みんなで合わせ叩いてみる。（合奏）

リズムや叩くところを変える

今回叩いた部分だけでなく、その他の部分も叩いてみて、1曲完成させる。

リズムのバリエーションを増やしてみる。

付箋紙法
(2回目)

【言語活用能力】

児童同士の言語能力を用いたコミュニケーションを促す活動の設定

メンバー

教員B、他7名

成果 (良かった点)

児童の言葉でのやり取り

言葉で伝えようとする様子が見られた。

一生懸命取り組んでいて良かった。

児童対児童で言葉のやりとりができていて良かった。

児童の様子から答える人を指名するように児童に促してよかった。教員が間に入ることでやりとりが生まれていて良かった。

教師の仲介

教材の工夫

カンペがあることで、言葉が不明瞭な児童も出題しやすかった。

課題 (さらに活発なやり取りを目指して)

解答場面での工夫

発語が難しい児童に答えの選択肢(イラスト等)があると答えやすくなるのではないか。

イラストで選択肢を出す、○×で答えられるようにする等答え方を工夫できると良いのではないか。

出題者が答える人も指名するか全員に聞きに行くと全員がやりとりできるのではないか。

やり取りの場면을意図的に増やす

雰囲気づくり

早押しボタンや○×ボタンなどを使うことで、より興味や関心を高められるのではないか。

フレーズを絞るのはどうか。

ジェスチャーを付けるのはどうか。

【言語活用能力】 児童同士の言語能力を用いたコミュニケーションを促す活動の設定

①成果

- ・ 児童同士で、言葉を用いて一生懸命やり取りしようとする様子が見られた。
- ・ 教師が間に入ることで、やり取りが生まれる場面があった。
- ・ セリフのカンペがあったことで、言葉が不明瞭な児童でも出題しやすかった。

②課題（さらに活発なやり取りを目指して）

- ・ イラストやカードを用いる等、質問に答える際に工夫する。
- ・ 出題者が全員に答えを聞いて回るなど、やり取りの機会を意図的に設ける。
- ・ ピンポンブザーを使ったり、ジェスチャーを付けたりすることで、雰囲気盛り上げていく。

3 成果と課題

〔成果〕

【音楽的能力】

・太鼓の中心を交互に叩くことを目標としたが、「太鼓のポーズ」や打面への数字での視覚支援を段階的に行ったことで、目標を達成することができた。数と音楽の特徴である規則性を関連付けたことが有効であった。

【言語活用能力】

・クイズ形式でのやり取り場面を設定したことで、児童同士が言葉で伝えようとするやり取りが生まれ、言語活用能力の育成に繋がった。カードやセリフを用意したことや教師が仲介することで、言語能力の未成熟な児童にも対応することができた。

【研究仮説の検証】

・授業内に言語活用場面を教師が意図的に設定することにより、言語活用能力の伸長が見られた。授業での経験から言葉によるやり取りが盛んになることを期待している。

〔課題〕

【音楽的能力】

・ 個々の児童が太鼓を正しく叩くことができてきたので、個々の演奏を繋げたり、合わせて合奏したりする活動を通して、更なる協働的な学びに発展させていきたい。

【言語活用能力】

・ 継続的に児童同士のやり取り場面を設定していく。その際にはカードやイラスト等の視覚支援を増やしたり、教師の仲介を少なくする等、児童同士のやり取りの深化に努めたい。

【研究仮説の検証】

・ 本授業でのやり取りを通して育成された言語活用能力が他の場面ではどう活用されているのかを、他の学習場面や学級、学年に般化させながら情報共有を図り、更なる成長を促す手段を探っていくことが必要となる。